御崎馬の近況　門村氏談　27.6.19

筆記．川村俊蔵

A、昨年以来の死亡

例年よりもずっと少い．

	死亡個体番号	時期	死亡場所及び死亡状況
1.	209	3月頃	不明．死体発見されず．（註1）
2.	105の仔	4月頃	工谷上部．バス道路のすぐ下の斜面
3.	131の仔	10月1日	モトボリ谷中流橋の上手の谷[崖]に落下す．

註1：209号の死亡は．仔馬がひとりでうろついていたことによってわかった．この仔馬は9月末生まれで．約5ヶ月親についてくらしていたわけである。ただ今清水旅館附近で放し飼いのまゝ．人の世話をうけている．人間によくなれて手からものをたべ．大体清水の軒下を宿にしてごくせまい範囲をうごいている．→写真．

追記：昨年やせ細っていた21号（星）及びその仔は未だ健在である．

B、昨年度における捕獲

昨年売った仔馬は2頭、1頭は早く売り．ついで13の仔を売った。

昨年村で生まれた134の仔は．今も牧にいる．バンズーでよく見かけられる．

C、今年度における受胎及び出産の模様．

50号が3月頃子をうんでこれを棄てて死亡させたので．昨年から懸案になっていた出産用牧柵（これを牧区という）の新設が~~[illegible]~~具体化し．清水旅館の北西側につくった。バス道路のすぐ下で

長径70m位の矩形乃至楕円形

図のように少し掘り下げた形になっている。このためときどき外から馬がとびこむ。中からは出られない。 ——→ 写真

	親馬番号	出産時期	出産場所	仔の性別 ~~出産~~	出産後の状況	
1.	50	3月	展望台東側. 大谷斜面にある窪地	♂	仔をすてて死なせる.	
2.	301	4月中旬	牧区内	♀	健在	
3.	22	4月下旬	〃	♀	〃	
4.	332	〃	〃	♂	〃	
5.	310	5月上旬	〃	♀	〃	
6.	302	〃	〃	♀	〃	註1
7.	62	5月中旬	〃	♂	流産	註2
~~8.~~	~~302~~	~~6月上旬~~	~~〃~~	~~♀~~	~~健在~~	~~註3~~
8	13	もうすぐ.	〃		妊娠確実	
9	104	もうすぐ.	まだ入れていない		〃	
10	52	?	〃		〃	
11	103	?	〃		〃	
12	148	?	〃		〃	
13	105	?	〃		妊娠不確実	
14	112	?	〃		〃	

註1 ~~及び註3~~.

302は5月中旬にうんで一たん牧区から外へ出したのに、6月上旬再びこんどはじぶんで柵をこえて中へ入った。子供が栄養~~失調のよう~~不良の状態であったから、ひきつづき牧区内で養っている。

註2. 62号は牧区に入ることを拒み、3日間あとを追いまわしてやっと入れた。このときの疲労或いはショックで流産したと門村氏は考えている。

D、種牡共の近況。

1号. 101 group や、ジバエ、カリヤガキ(コ谷・ウ谷方面のこと)の馬らとともにおり、発情期には小松ヶ辻を占めた。他の方面にすむ牝馬が発情して上へ上ってくると、101 group を離れて、その馬の方へゆく。時期がすぎると、下の方へ下りて行ったが、彼の棲息する場所は、山陽、山陰のいづれともわからず、両方をかけて nomade するらしい。

3号 大体ナクエから大谷峠をへてギンズ(大谷中流よりやゝ下手左岸にある伐採あと草地のこと、よく馬が見られた場所)あたりにかけてよく見る。神社の附近へはあまりゆかない。発情期にもそのあたりを占めており、出産直後に発情する牝馬をもとめて、何度も牧区にとび込んだ。いつもならんでいるのは304号など。21号と一しょにいる姿は全く見ない。

4号 イワクラ一帯を占め、発情期にもやはりそうであった。大体62号の一族とともにいるが、この一団はたえず離合集散している。101 group の一団とは全く違う。301, 302らもよく一しょにいる。かなり行動範囲がひろい。

5号 生れてからこの方同じような状態で、ジバエに入りびたりである。発情期になっても上ってこない。ジバエ下方の草地はますます好適な grazing ground に化しつつある。

附、御崎馬に対する土地の人々の態度及び方針.

Ⓐ門川盛夫 Ⓑ門川助役 Ⓒ長野金太郎 Ⓓ門村

Ⓔ清水唯義 Ⓕ中村竜夫. 以上ききこみの対象

1. 牧区設置問題、

Ⓒ及びⒹによれば、牧区の設置は牧組合の方で昨年からとりあげられていた。これは村で作った134の結果がよかったからである。新畜産課長がこの方針を支持し、急速にはかどったものらしい。このため牧組合は新課長に大きな信頼をよせている。Ⓐの話も大体この経緯を裏書きしていた。しかしⒶ自身はなるべく牧の責任をかぶらぬよう、至って逃避的である。

2. 天然記念物問題.

Ⓐ,Ⓑ,Ⓒ,Ⓓ,Ⓕからきいた意見は大体一致している。即ち天然記念物指定になれば牧組合の自由がそれだけ束縛をうけ、とくに売買ができぬようにならぬかという危惧から忌避的態度をとっている。牧の慣行が認められた上での指定ならば別に異存はないというのも一致した発言であった。ただこの場合も、さわらぬ神に祟りなしといった気分が濃厚で、畜産課長は頭から天然記念物問題を否定し、村民から信頼をえた。

3. 観光問題と村内の対立 観光地としての開発

2、と関聯する観光問題は、を積極的におしすすめようとするⒺ及びおそらくⒺのうしろで働いている永阪村長一統と、これに対する牧畜一本槍の牧組合との間で冷たい戦争となりつつある。永阪村長は今春のブリ網で大もうけをし、これを清水旅館増築につぎこんだ。即ち清水は永阪個人の援助出資で家をたてることができた。一方御崎部落

や中牧、野々杵をはじめ多くの地元民と牧組合は一様に清水を罵倒し、魚貝類も売らないし、清水の敵対者であるもう一軒の宿屋の側に立って援助している。Ⓕはこの宿屋に当初から関係をもち、われわれに対してもこの宿屋で泊るよう持ちかけたし、長野代ら[illegible]とこの点で同一戦線を張っている。一方清水はⒻらを罵倒する。新築旅館の前にいらない牧区監理小舎（イワクラにあった小舎を移転）を設けたのも嫌がらせであるという。中村籌夫派対永汐一六派の対立の間で、門川一門は中立的態度をとっている。ヒイ十旅館の点でもこれは如実に現われている。（Ⓕは6月20日頃に日南海岸国立公園期成同盟会会長を辞任した）

。 牧区の牧手には東の山内寅吉を任じてある。
大朝九州版4月中旬に牧区についての写真づきのくわしい報道がケイサイされた。（福岡支社から人がきて取材）

10月1日
21.00ごろ
馬がノハネ上の
畑に侵入.
112乎,bらしい
といふ.
(斉藤チイさんより)
N
中茶台
モトボリ谷
コ谷
ク谷
ミツメカ
イワセト谷
ウチミズ谷
シバエ谷
コマツガツヂ
ホリキリ
野々村
ニシ谷
ウゼンノ谷
クジラノセ
296.3
イワクラ
岩尾根
水神
ハラツパ
ニシ谷
クジラケ谷
シマドネ
ケンサガ谷
土ヨーレン山
燈台
ナグエ
牧合
御師
山ノ神谷
神社

10月2日

19.10
クロカゲ♀（ワリに小）
クロカゲb（ワリに小）
夜陰にて詳細分らざるも
112♀には非ず.

6.20
13♀ ?
b

6.15
3♂
21（星のあるカゲ）
b（やせる）
（3♂後れていたが、私がゆくと急いで追及）

6.30
62♀らのグループらしいもの
4,5頭見ゆ.

N
毛久原台
中水台
コ谷
ウ谷
モトボリ谷
ミツメカ
イワセト谷
コマツカツヂ
ホリギリ
ウチミズ谷
野々杵
シバエ谷
ゴジ
ウセンノ谷
クジラノセ
ニシ谷
クジラケシマムネ
296.3
イワクラ
岩尾根
水神
ハラツパ
ナクエ
旅合宿
御師
ケンザガ谷
チヨーレン山
燈台
神社
山ノ神谷

10月4日
11.50
1♂, トの字, b
14.00
カゲ♀, クリゲがかった大きいb
17.20
カゲ♀4頭
クロカゲ♀1頭
中に62♀あり。
4谷の♀なし。
13.30
22♀の♂がーソリタリーで、
16.50
22♀のトリオ
中牧
コ谷
ウ谷
モトボリ谷
イワセト谷
コマツガンダ
ホリキリ
野々杵
296.3
イワグラ
ハラツパ
水神
ナクエ
御崎
燈台
神社
山ノ神